

長崎だより

長崎の情報を
お届けします

FFG調査月報の姉妹誌「ながさき経済」を発刊している、ふくおかフィナンシャルグループの長崎経済研究所。長崎の旬な情報を提供するコーナー「長崎だより」の今月号は、クラウドテックラボ 代表 神崎 健輔様に「南島原から全国へ田舎のクリーニング屋が起こすイノベーション」と題し、寄稿していただきました。

長崎経済研究所による「ながさき経済web」随時更新中!



当研究所が発信する最新の情報をメールでお届けします。

メールマガジンの登録はこちら▶



お問い合わせ

株式会社長崎経済研究所

長崎市銅座町1番11号
十八親和銀行本店内
TEL095-828-8859



ながさき経済web画面

長崎経済研究所とは

長崎県の経済・社会・産業動向などに関する調査研究及び企業経営や県民の生活のお役に立つ情報をご提供するとともに、各種経済・文化団体の事務局活動等を通じて、地域社会に貢献することを目指しております。



南島原から全国へ 田舎のクリーニング屋が 起こすイノベーション

寄稿 神崎 健輔

はじめまして。洗濯ハカセの神崎です。

何気なく、サラリーマンをしながら20代を過ごし、実家のクリーニングの技術を全国に広めるために識者活動を始め、趣味を生かしたシステム開発もしつつ、今や本職がクリーニングでいいのか、システムエンジニアなのか、時々、一体自分の職業ってなんて回答したら一番伝わるのだろうか？今回は、そんな私が、いかにして今の自分になったのか、振り返りながら紹介したいと思います。

安泰の上場企業を辞めて 田舎町へUターン

20代に勤めていた先は、誰もが知るカメラやプリンターでも有名なキヤノンのグループ企業で、順調に仕事をこなしていました。そんな時、先に実家のクリーニング店を継いでいた弟から「クリーニングの会社をもっと大きくしたいから帰って手伝っ

て欲しい」そんな一本の電話が南島原の田舎町にあるクリーニング屋に勤めることになるきっかけでした。

ちょうどそのタイミングというのが、一人目の子供が生まれたばかり。安定した将来の約束された平たんな会社か、不安定で将来の見通しはないかもしれないけど楽しい会社か。悩むこともありましたが、楽しい方が絶対にやりがいはある。自由に何でもチャレンジして前の会社より安定させることもできる。そう考えて比較的あっさりと会社を辞め、戻ることを決めました。



白洋社

Profile



はくようしゃ
有限会社白洋社 部長
株式会社クラスタス 技術責任者
クラウドテックラボ 代表

かん ざき けん すけ
神崎 健輔



白洋社



クラスタス



クラウドテックラボ

1981年 長崎県南島原市有家町生まれ
1999年 長崎県立有馬商業高等学校卒業
2001年～ キャノンカスタマーアンド
2010年 サポート株式会社
2010年～ 有限会社白洋社
(南島原市へUターン)
2014年～ 株式会社クラスタス(創業)
2018年～ クラウドテックラボ(IT個人事業・
洗濯ハカセマネジメント事業)



毎日365日・ 染み抜きの日々

まずは「クリーニング師の国家資格」を取得することから始まり、そのほかのことと言えば、毎日、毎日、染み抜き漬けの毎日。だいたい1日に染み抜きする量は1000着〜2000着ほど。朝から夜まで休

憩時間以外はずっと染み抜きをしていました。

地味な作業にも思えますが、染み抜きはクリーニングの技術が小さく凝縮されたようなものです。衣類の生地の性質や状態。汚れの性質や状態。落とすために使う薬品の種類や性質。色々な情報をキャッチして適切な処理をする必要があります。



染み抜き作業



工場内部

その作業は工程を間違えると取れないシミに変わってしまう可能性もありますし、使う薬剤を間違えれば生地にダメージを与える可能性もあるため慎重さが求められますが、思い切つてやるといった大胆さも求められます。

さらには、変色した色を元の色に近づけるための色掛け要素があつたりと、慣れるまで苦労したり、毎日大量の洋服のシミを落とすのは大変ではありましたが、染み抜き作業はすごく楽しい作業でもありました。

時には休憩を忘れて染み抜きに挑戦し続けたり、楽しさのあまり作業をやりすぎて、腱鞘炎になったほどです。そんな作業を3年ほど続けました。

きっかけは何気ない会話から 全国展開の ネットクリーニング開始

今や北は北海道、南は沖縄から、全国的な規模に成長したネット宅配

クリーニングのネクシーのサービスと、株式会社クラスタスを創業するきっかけになったのは、「インターネットでもクリーニングの品物を集められればいいよね」と、弟たちとたわいもない冗談話をしたことでした。

その後、白洋社の社長である弟の奥さんが双子を妊娠・出産し、子どもを持つ主婦の立場から「宅配クリーニングがあつたら便利なのに」という切実な声を聞き、「ネットクリーニング」実現に向けて本格的な検証や下調べを始めました。

ネット販売システムは 自ら開発

キヤノン時代にはパソコンを触っていたとはいえ、プログラミングの知識はゼロ。最初は宅配クリーニングのシステムを外部の業者へ発注しようとしたところ、1,600万円の見積もりをいただきました。

希望したサイトは特殊な仕様が必要で、一般的なネットショッピング



のカート機能では、自分たちが求めたシステムは作れなかったのです。しかしながら、地方の企業にそんな背伸びした金額は現実的ではありません。ならば自分でやるしかない！それまで一切触ったことのない！それまでWebプログラムを独学で勉強し、自らサイトをコツコツと作成していきました。

たまたま、時を同じくして南島原へ企業誘致されてきていたIT企業へも相談し、クレジットカードなどの決済機能はプロへ、そのほかの部分は自分が引き続き開発を行い、半年ほどかけて宅配クリーニングネクシーのWebサイトを作り上げました。プレスリリースも行ったので、テレビ局が取材に来ると知り、公開3日前は徹夜で作業し取材日の朝によやく完成にこぎつけました。

ネットに出せば売れるは大間違い

インターネットに出せば売れる！

誰しもが陥る罠の一つかもしれません。もちろんネクシーの宅配クリーニングサービスも、当初の1年は、ほぼ売り上げはゼロに等しく、閑古鳥が鳴いていた状態でした。それもそのはず。作ったサイトの出来栄えといえはやはり素人同然。立ち上げた2015年から2017年の3年間で完全リニューアルを年2回ずつ、完全な作り直しを6回も繰り返しました。徐々に、他のサイトにも見劣りしない見栄えや操作性を実現しサイトの使いやすさや訴求力をアップ。ネット広告やSEO（検索エンジン最適化）対策などインターネットショッピングで売れるために必要な要素を、ひたすら追求し変更し続けました。

サイト以外の要素も、追求しました。ネット宅配クリーニングは競合がたくさんあります。やっているのは、私たちだけではありませんが、全ての宅配クリーニング業者の中でネクシーが一番キレイにできるという自信があります。染み抜きの時と

同じように技術を磨き、「とことんキレイに」を心がけて全て手仕上げでお届けしています。そんな「ガチでキレイにしてくれる！」といった体験を提供し、徐々に浸透していくことで、全国から南島原に向け洗濯ものが次々と送られて来るネット宅配クリーニングサービスに押し上げるこ

とが出来ました。



水温で洗剤の溶け方に違いがでるかの実験



高さで早く乾くかの実験

洗濯ハカセ爆誕

どんなにサイトが綺麗でも、使いやすくても顔の見えないネットのサービスは不安。そんなことを解消する目的で始めたのが、識者としての活動でした。きっかけは、染み抜きで得た知識を保育園の保護者向けイベントで披露したことが最初の始まりです。洗濯といえば生活する上で必ずやっている作業だと思うので



識者としてイベントに出演



すが、イベントに参加して感じたのは、クリーニング屋の洗い方の常識は、みんなの非常識でした。そんな情報をブログなどを使って、「洗う技術」を家庭向けに毎日発信。そんなことを繰り返すうちに、雑誌への技術情報提供や、ラジオ出演、テレビ出演。さらには上場企業でもあるライオン株式会社のプロモーションの一部にも参加したりなど、識者としての活動が広くなることで、顔が見えないサービスも、「あの洗濯ハカセ



ライオン株式会社のプロモーション

のクリーニング屋だから安心よね!」といった不安解消に繋がりはじめています。

田舎からも

ＩＴイノベーションを起こす

クリーニング屋へのＵターン、ＩＴベンチャー創業、識者活動と紹介してきましたが、最後に残ったクラウドテックラボ事業も含めた今後のＩＴイノベーションについて少しだけ話をしたいと思います。

自分の夢は「ガンダムを作ること」です。２０２０年に横浜に動くガンダムが公開されましたが、作りたいのは本当に乗って動かせる、怒られるかもしれないが、あわよくばドンパチできるレベルのガンダムを作りたい! というのが夢です。

そのためには、色々学んでいこうということで、最近では人工知能を開発するための勉強も始めました。最初はLINEでやりとりできるチャットボットから始まり、

GoogleHOMEのようなスマートスピーカーの機能を盛り込んだロボット。チャットボットと会話しながらリアルな脱出ができるゲームなど人工知能を取り扱うプログラムを個人的に開発し提供したりしているのがクラウドテックラボの個人事業の仕事の半分です。

また、ＩＴの勉強のため、南島原市が開催するアイデアソン（アイデア×マラソン）やハッカソン（ハック×マラソン）に参加したり、南島原市

ＩＯＴコンソーシアムの会長に就任したりと、ＩＴの世界に自ら深みにはまっていきました。

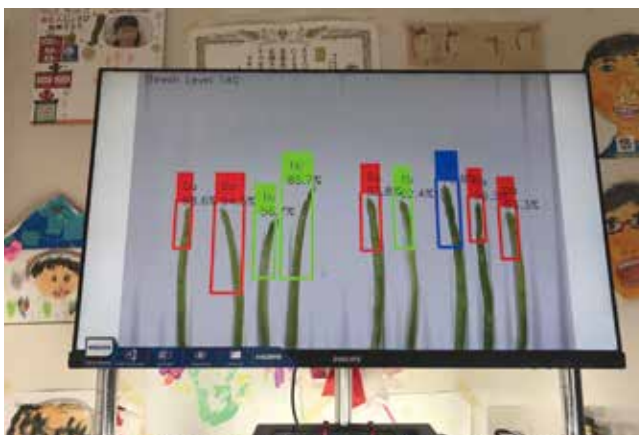
そんなこともきっかけとなり、一昨年前に南島原市と東京にある株式会社セラクが受託したスマート農業実証プロジェクトにも参加し、アスパラガスの等級を判定できるＡＩを作りました。アスパラの等級判定ができるのであれば、クリーニングの衣類の種類も読み取れるのではないか? と思い立ち、



南島原市主催のハッカソン



集合写真



アスバラAI



アスバラ選別デモ機



洗濯ハカセのコインランドリー



AIが衣類を判定するクリーニングのセルフレジ

おひらき

「AIが衣類を判定するクリーニングのセルフレジ」の開発に取り掛かりました。クリーニング事業の合間や、夜自宅に帰ってからの作業だったので開発に1年と少しかかりましたが、EPSONやGLORYからPOSプリンタや釣り銭機を借りての開発。地元の南島原市の地域商社である株式会社ミナサボや長崎大学など、たくさんの方々にも協力をいただき22年3月島原でリニューアルオープンした「イオン島原店」と、新しく始めるコインランドリー事業である「洗濯ハカセLAUNDRY.LAB」にて無事に稼働させる事ができました。まだまだ衣類のデータが足りないため、実際にお客様に利用してもらいながら、AIを成長させ完全無人化も目指した取り組みを実施していく予定です。

10年前とは違い、スマートフォンな

どですぐにネットに繋がり、買い物をしたり、いろんな情報を得ることができる世の中になりました。都会だけで出来ることは少なくなりました。直近ではコロナ禍になり、様々なイベントがオンライン化され、都会の大きな会場に行くことなく、大きなイベントにもオンラインで参加できるようになりました。

人工知能の開発など大学や大企業でしか出来なかったことも、個人が趣味レベルでできるような世の中にもなりました。

自分がやるべきことを明確にして、足元から課題を解決していけば、地方でも田舎でも、どこであつても自分が活躍できる環境を作れると思います。

南島原の海と山に囲まれ自然がゆったりとした場所で仕事をしながら、今後も楽しくイノベーションを起こしていくので、応援よろしくお願ひします。